えど友ホームページ
https://www.edo-tomo.jp/

えど友 EDO-TOMO

第121号
令和3年
(2021)
7－8

江戸東京博物館友の会会報

目次

特別寄稿「拝火教の残り火を訪ねて」……1～2
第21回定期総会「書面議決」のご報告……3
えど友広小路……4～5
　会員からの投稿「あまびえ」だけじゃない／サークルだより／館蔵古文書翻刻だより／友の会めも
友の会セミナー「家康以前の江戸城―知られざる太田道灌・小田原北条氏の縄張り―」……6
見学会「再訪・品川宿を巡る―徳川将軍家との縁―」……7
友の会カードは“休館前なら”こんなに使える！……8
えど東京一景(28) ―麻布十番のきみちゃん像―……9
江戸博クリップ「パンのようなものが焼ける木箱」……9
江戸名所図会を歩く…㊺
　[根津権現社から富士浅間社]……10
催事案内／会員優待のお知らせ……11～12

特別寄稿

拝火教の残り火を訪ねて

江戸東京博物館　藤森照信　館長

古代史や美術のファンがよく知るように、いにしえの奈良の時代、ペルシャ(イラン)と大和(日本)には文物の交流があり、はるばる砂漠と海を越えて胡人(ペルシャ人)も来ていた。

とりわけ興味を引くのは今も続く東大寺二月堂の“お水取り”で、日本海側の若狭の地から聖なる水を火をかざして送り、奈良では“若狭井”から汲み上げ、盛大に火を焚いて迎える。日本海側から水を送るのも火を焚いて迎えるのもあまりに謎めくが、これをゾロアスター教から解釈して世に衝撃を与えたのが松本清張だった。

古代ペルシャ帝国の宗教こそゾロアスター教にほかならない。ゾロアスター教はその後の世界宗教の成立に大きな影響を与え、西のユダヤ教とキリスト教の“神(ゴッド)と預言者(モーゼやキリスト)という関係”、東のインドのバラモン教(ヒンズー教の源流)のカースト制、さらには仏教成立にも深く関わっている。若きバラモン僧シャカが、宗教改革を目指して生み出したのが仏教だった。だから日本までゾロアスター教の断片が伝わってもおかしくはない。

こうした世界宗教への深い影響を知っていたから、ニーチェは、1883年、「神は死んだ」と世界に向かって宣言する時、その書を『ツァラトゥストラはかく語りき』と題した。ゾロアスターをドイツ語にするとツァラトゥストラとなる。

古代史、美術ファンならずとも、古代ペルシャで紀元前7世紀に生きた宗教家ゾロアスターの教えとその遺跡をたどりたくなろう。なお、ゾロアスター教はその後のイスラム教の隆盛によりほぼ滅び、今はイランとインドなどにごくわずか伝わるのみ。

古代ペルシャ帝国の崖に造られた王墓に大きく十字形が彫り込まれていたが、あれはゾロアスター教の根本原理である“空＝空気”、“大地＝土”、“太陽＝火”、“水”の四つの聖なる元素を図形化したもので、西に伝わってキリスト教の十字架となり、東に伝わって仏教の卍に変わった、ともいう。

▲ヤズドの新しい拝火殿

自然界の諸現象を抽象化すればこの四つに収束すると考えると、世界中に分布する原始的な自然信仰(アニミズム)に初めて言葉と図形を与えたのがゾロアスター教だった。

具体的には、火をあがめ、自然界の空と大地と水を清浄に保つことを旨とするが、目立つ火をあがめる行為から周囲からは“拝火教”と呼ばれた。

まず拝火の神殿から。四角な高い筒形をとり、上階で聖なる火を絶えぬよう燃やし続ける。ペルセポリスはじめ、たいていの拝火殿は壊されているが、王墓の一画にあるものは原型を留める。

7世紀半ば、ペルシャの国教がアラブから伝わったイスラム教に変わった時、ゾロアスター教は弾圧を受け、インドなど国外に逃れるが、

ごく一部の信徒は聖なる火を持って北の山岳地帯の盆地ヤズドに逃れ、1000年以上も聖なる火と儀礼と習慣を辛くも守り通した。

今は復活し、ヤズドの町の一画に新しい拝火殿が造られ、山の奥から移された火が燃え続けている。

展示されている儀礼の写真を見てうれしかった。白衣とマスクに身を包んだ信者が、地面に座し、緑も鮮やかな樹の枝を手にしているではないか。日本の神道の榊と通ずる。太い樹の根元にささげものをする写真もあった。緑の枝に聖なるものが宿るとする古い人類の心のあり様を示す宗教的習慣は、日本とドイツのメイポール(五月に立てる樹の柱)などは知っていたが、これに新たにゾロアスター教が加わった。緑は四元素(空気、土、水、太陽)の恵みの代表格。

新しい拝火神殿の正面上部にペルセポリスでも見たフラワシの像がシンボルとして取り付けられている。唯一神アフラ・マズダの像とも彼の守護霊を表わすともいい、人体と鳥の合体した姿をとり、上部の左右に伸びた翼は“善の翼”を、下方の斜め下に垂れたのは“悪の翼”を、翼の中心の輪は神と人との“契約”を意味するという。ゾロアスターは、唯一神アフラ・マズダから言葉(教え)を預かって地上の人々に伝えた預言者である。

▲ゾロアスター教シンボルのフラワシ像

しかし、古代エジプトの太陽神を示す“有翼日輪図”とあまりに似ており、古代エジプト図像を読み換えたにちがいない。エジプトでは輪は太陽(火)を示す。

拝火殿の中の火を支える壇は正方形を、火の燃える皿は円形をとるが、中国古代の北方遊牧民のシャーマニズムに由来する「天円地方」(天は丸く、地は四角)の考えも、あるいは拝火壇が元か。

火の次は大地の神聖化について。

葬送において珍しい習慣がもたらされた。土葬にすると大地が汚されるから、鳥に食べてもらって地上から消そう。いわゆる鳥葬で、町から離れかつ高い丘を“沈黙の塔”と名付け、葬送を執り行う。友人がネパールで岩の上での鳥葬をのぞき見て殺されかけた時のことを話してくれたし、インドのムンバイには町の中に“沈黙の塔”があり異教徒厳禁が守られているが、本場イランに伝わる“沈黙の塔”を見るのは初。

近年まで実際に使われていたそうだが、住宅地が広がって丘に近づき、かつ衛生上もあって今は鳥葬はやめ、火葬に変わり、塔は見学を許されるようになった。

ゾロアスター教徒の住む通りを抜けると何の前触れもなく砂漠地帯に至り、車を降りると、眼前に丘というより大きな岩山が青空を背にそびえ立つ。少し離れて二つ立つ。高い。予想よりずっと高い。

意外にも、岩山の下の砂漠に小さなドームをポコポコ乗せた建物が散在している。ヤズド地方の地区ごとの葬送儀礼の建物で、遺体を運んで来た親族や知人友人がここに集まり、十字形をした通路の交差部で火を焚き供物を献じ、十字通路を囲む各部屋では、飲食を参列者に供し、寝泊りもしたという。食のメインはいわゆるナン。ナンは日本ではインド料理の付きものとして好まれるが、元々は古代ペルシャに発し、乾燥地帯を通して東西に広まったとイラン人はいう。ふつう本格派インド料理のナンは石窯の側壁にペタペタ張りつけて焼くが、イランには石窯以前の焼き方が今も伝わり、窯の中の焼けた砂利の上に広げて焼く。“砂利の上に広げて”は窯や釜といった調理用具を持たない乾燥地帯の遊牧民に確かにふさわしい。

沈黙の塔の頂部に登ると、鳥葬の実態が明らかになる。頂部は背丈より少し低い、石の塀というか壁で囲まれ、中央に竪穴が掘られ、衣服を取り去られた遺体は壁と穴の間の円盤状のスペースに頭部を外側にして、多い時には２列に並べられ、ハゲタカをはじめカラスなど大小の肉食性のたくさんの鳥が群れて肉や内臓を処理し、残った骨は中央の穴に投げ入れて鳥葬は終わる。円盤状スペースはわずかに内側に傾くが、これは水勾配というか血勾配というか、そのため。男女分けて並べるという説明もあるが、そんなことはなかったと、見たことのあるガイドは教えてくれた。

ラストは水についての儀礼。ヤズドから西に1000km以上も離れた地にタフテ・ソレイマーンの神殿跡が残る。車を飛ばして山岳地帯を進むと盆地に至り、夕闇迫る中、にわかに信じがたい光景が待っていた。

▲聖なる池に映る夕陽

大地の一画が円錐状に盛り上がり、頂部に至ると、平らでほぼ円形をした池が縁までコップのように水をたたえて天を映し、周囲には石造の遺跡が広がり、その一画には崩れた拝火壇が立つ。砂漠の中の水深100mを超えるという大量の水は、川もないのにこの円錐の頂部までどこから来たのか、なぜ池の縁は自然の岩なのに上辺がコップのように平らなのかの謎は、小型の火山の火口湖との説明で理性的には分かったが、感覚的には水の神秘としか思えない。

夕暮れ時に着いたおかげで、周囲の石造の遺跡に一人座り、まず夕日が水面に映り、続けて空を赤く染め、その後、山のかなたに消えるまでを眺めることができた。陽(火)と水と空と大地が一つになって演ずる光景を、これほど印象深く、かつ分かりやすく眺めることのできる場所はここだけだろう、と確信しながら。

第21回定期総会報告

今年も「書面議決」によって議案可決

2021年度の定期総会は、江戸東京博物館大ホールでの開催を予定して準備を進めていました。『えど友』120号の「第21回定期総会開催のご案内」に記載のとおり、江戸東京博物館藤森照信館長による記念講演会も予定していました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大が続いているため、議案書の印刷を手配する直前で、急きょ、総会を書面議決方式に変更することとし、記念講演会は中止することになりました。

総会の議決権行使書(はがき)は、2021年5月10日までに事務局宛に返信していただき、5月18日に、総務部会で議決権行使書の集計を行いました。

集計結果は、次のとおりです。

発送した議決権行使書数：	1,163枚
返送された議決権行使書数：	659枚
賛成数：	659
反対数：	0

規約の第11条により、

・返送された議決権行使書の枚数は、会員数の1／3以上あり、総会は成立しました。

・返送された議決権行使書の全てが賛成であり、半数を超えているため、次の第1号議案から第4号議案まで全て可決、成立しました。

第1号議案	2020年度事業報告ならびに収支決算報告
第2号議案	2021年度事業計画案ならびに事業予算案
第3号議案	江戸東京博物館友の会規約の改訂および2021年度会費の扱いについて
第4号議案	役員および監事の選任

2020年度は、新型コロナウイルス感染の拡大により、計画していた催事の中止が相次ぎ、参加費収入が落ち込みましたが、催事の件数が少なくなったため、支出も予算に対して減少しました。2021年度は、計画した催事を全て実施したいところでしたが、再度の緊急事態宣言発出のため、既に一部の催事が中止または延期になっています。コロナの収束を祈るばかりです。

今後は、博物館が予定している2022年度からの大規模改修と、それに伴う長期休館に対応するため、「休館対応プロジェクト」を正式に発足させます。休館中は、江戸博内の友の会事務室が閉鎖になるなど、いろいろな制約により休会前と同様な方法では催事を行うことができません。会員の皆さまとのつながりを持てるよう、規模、方法などを見直して、できる催事があるかどうか、あればどのような方法でどんな体制で開催するかなど検討します。その結果は、2022年3月に開催予定の臨時総会で提案いたします。

役員は15人から13人と少なくなりましたが、力を合わせて、友の会の運営に当たります。皆さまのご協力をお願いいたします。

2021年度会費

2021年度の会費は、第3号議案に基づき、更新月によって会費が異なります。下表で会費の金額をご確認ください。

会員証の裏面に貼付するラベルに記載の会員資格期間は、年月日ではなく、例えば「休館明け2カ月」のように記載します。

休館中、以下の外部施設：

・江戸東京たてもの園・東京都庭園美術館・東京都写真美術館・東京都現代美術館・東京都美術館・東京文化会館での優待特典は利用できなくなります。ご注意ください。会員証裏面のラベルに「休館中 他館での優待特典は利用不可」の文言を追加します。

「会員資格期間が休館期間を含む会員証」をお持ちの2021年1月～3月の更新者、および4月以降の新規入会者の方は、会員資格期限は「休館明けの1カ月～3カ月(休館期間中に含まれる会員資格月数に対応)」となります。新しい会員証は2022年3月中にお送りします。

2021年度友の会会費

更新月	休館まで残り月数	休館明け月数	合計月数	2021年度会費
4月	11カ月	1カ月	12カ月	4,000円
5月	10カ月	2カ月	12カ月	4,000円
6月	9カ月	3カ月	12カ月	4,000円
7月	8カ月	1カ月	9カ月	3,000円
8月	7カ月	2カ月	9カ月	3,000円
9月	6カ月	3カ月	9カ月	3,000円
10月	5カ月	1カ月	6カ月	2,000円
11月	4カ月	2カ月	6カ月	2,000円
12月	3カ月	3カ月	6カ月	2,000円
1月	2カ月	1カ月	3カ月	1,000円
2月	1カ月	2カ月	3カ月	1,000円
3月	0カ月	3カ月	3カ月	1,000円

文：広報部会・前田太門

会員からの投稿

「あまびえ」だけじゃない

松原　良

昨年は「あまびえ」が流行語に選ばれるなどして話題になりました。この類のものを「疫病予言獣」というのだそうですが、去年ひょんなことからこの疫病予言獣を調べることになりました。

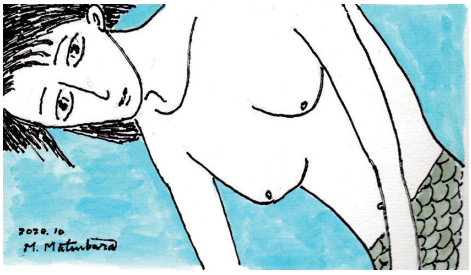
実は私は日本落画家協会という会に入っています。落画家とは落語家の向こうを張った半分冗談で、落語家の似顔絵や落語のシーンの漫画などを描く人たちの会を落画家協会と称しています。私は落語ゆかりの地の風景画専門という異色の新人なのです。その会主催の「第８回寄席描き展」で企画コーナー「あまびえだけじゃない！疫病予言獣（？）イラスト大集合」に出品することになったのです。つまり、疫病予言獣の一つを選んで、自分のイメージでそのイラストを描いて出すというのです。

そこで私が歴史系総合誌『歴博』第170号などで調べて選んだのが越後の人魚です。資料には絵も付いているのですが、私のイメージで今風の人魚としました。

資料によると、『藤岡屋日記』という本に「嘉永二酉年閏四月中旬、越後福島潟人魚之事」として以下のようなことが書かれているそうです。「越後国蒲原郡新発田城下の脇に、福島潟と云大沼有之、いつの頃より夜な々々女の声にして人を呼ける処、誰有て是を見届る者無之、然ルニ或夜、柴田忠三郎といへる侍、是を見届ケ、如何成ものぞと問詰けるに、あたりへ光明を放ちて、我は此水底に住者也、当年より五ヵ年之間、何国ともなく豊年也、但十一月頃より流行病ニて、人六部通り死す、され共我形を見る者又は画を伝へ見るものハ、其憂ひを免るべし、早々世上に告知らしむべしと言捨つ々、又水中に入にけり。

人魚を喰へば長寿を保つべし
　見てさへ死する気遣ひはなし

右絵図を六月頃、専ら町中を売歩行也」（一部文字変更読みやすくした）



というわけで描いたのが上の作品です。実はこれを描くに際しては、太田道灌がらみで「江戸城再建」という作品に釣られて買ったコミック誌を参考にさせていただきました。

たまたま私の妻の知り合いに新潟県新発田市出身の人がいたので聞いたところ、新発田には新発田城址公園のそばに今も福島潟という所があって、季節には蓮の花が咲いて見に行く人もいるそうです。

それにしても江戸時代にも疫病をネタに一稼ぎする人が全国にいたとは驚きでした。

えど友 サークルだより

◆落語と講談を楽しむ会

４月、５月休会。

◆藩史研究会

４月16日（金）國定美津子さんの発表。現在の福島県いわき市にあった湯長谷藩（磐城国）は磐城国平藩の支藩。寛文６年（1666）、平藩主内藤忠興は、３男政亮（姓は本家を遠慮して遠山を名乗る）に所領の増加分２万石を分与したいと幕府に申し出て４年後に許されるが、石高は１万石に減じられた。初代藩主政亮は湯本村の仮居所に７年余りいて湯本藩が成立。延宝４年（1676）11月に湯長谷に移転し、翌５年４月、陣屋の普請が成り湯長谷藩が立藩となった。以降、２代正徳まで遠山を名乗り、３代政貞から内藤に戻す。13代政養のとき明治維新となり、最後の藩主は14代政憲であった。参加者13人。

５月14日（金）鶴谷博幸さんの発表。矢島藩は出羽国由利郡矢島（現秋田県由利本荘市）にあった。讃岐国高松藩主生駒高俊が寛永17年（1640）生駒騒動の責めを負い、同藩領地（17万1800石）が没収され、矢島藩１万石に転封した。２代高清～11代親賢までは旗本交代寄合であったが、安永９年（1780）、７代親睦の時初めて矢島入りを許され、その後参勤交代を行った。12代親敬は慶応４年（1868）、戊辰戦争で官軍に協力、１万5200石にて再度藩が成立した。明治４年（1871）、廃藩置県で矢島県、さらに秋田県に編入された。参加者12人。

◆「米屋田中家明治日記」を読む古文書の会

４月、５月休会。

◆『江戸名所図会』輪読会

４月15日（木）光田憲雄さんの担当。江東区深川にある陽嶽寺、海福寺、採茶庵旧蹟を発表。長光山陽嶽寺は臨済宗妙心寺派の禅寺。寛永14年（1637）の創建。開基は水軍で名高い向井将監忠勝。陽嶽は向井将監の法号という。本堂、庫裡、恵心僧都作の本尊観音大士像などの総てが、大正年間（1912－26）の大火や震災で焼失。現在の本尊は京都の実相院から移したもの。２代目英一蝶の墓が現存している。

永壽山海福寺は万治元年（1658）、

隠元隆琦が開山。黄檗宗。これは京都宇治の大本山萬福寺より早い。明治43年(1910)、小学校開校のために目黒区に移転。挿し絵で見ると、仏殿、天王殿、庫裡、鐘楼などが並んでいるが、この深川の旧地には何も残っていない。目黒には、梵鐘、九層塔、永代橋崩落横死者供養塔と永代橋沈溺横死者諸亡霊塔が移転されている(山門と本堂は、上落合の泰雲寺からの移築)。採茶庵旧跡は芭蕉の門人で支援者でもあった俳人杉山杉風(さんぷう)の庵室、採茶庵の跡。芭蕉が奥の細道の旅に出発する際、芭蕉庵を引き払ってここに移り、ここから旅立ったという。採茶庵の本当の場所、また「芭蕉庵」について活発な話し合いがされた。参加者14人。

５月休会。

◆日本の大道芸伝承会

４月14日(水)１年半ぶりに開催された深川江戸資料館のイベント「江戸の物売りと大道芸」の成功に自信をつけたことと、９月のイベント開催が決まったため、張り切ってがまの油売り、南京玉すだれ、六魔(手相人相)などを行った。参加者３人。

５月休会。

◆江戸を語る会

４月休会。

◆太田道灌ゆかりの地を訪ねる会

４月、５月休会。

●各サークルとも引き続きメンバーを募集しております。参加希望の方は、はがきに①サークル名②会員番号(必須)③氏名を記入の上、友の会事務局へお申し込みください。

館蔵古文書翻刻だより

◆Ａ班『新古改撰諸記』

時代背景としては、前年に丙寅の大火、米価下落、３年間倹約令が出ました。

文化四年九月朔日、西丸中間供組頭からの羽織支給増の願書である。従来から役羽織・茶縮緬裕羽織を本丸中間供組頭へは毎年五つずつ夏と冬に支給されている。世継ぎなどの住む西丸の同役へは冬用に５人に対して一つだけしか支給されていない。最近は西丸様(家慶君)のお出かけや稽古なども活発の上、更に本丸の手伝いも多くなった。よって本丸と同じにして欲しいところだが無理だろうから、西丸は５人へ一つを、何とか二つ増やし、５人へ三つにして欲しい。そうすれば２年で５人が一つずつ受取ることになるので大変ありがたい。何とか増やすようにお願いしたい。

十月十一日若年寄植村駿河守より「是迄の通りと心得よ」と願書却下の旨、上司の西丸目付桜井庄兵衛に言い渡された。

本丸と西丸では扱いに非常に大きな差があることが分ると同時に、願書の結果もゼロ回答で、もちろん理由などの説明もありません。この時代以降は前例踏襲主義が強くなかなか認められないことが多かったのです。

友の会めも(開催日と人数)

令和３年４月～５月

◆役員会4月13日(火)20人。5月11日(火)中止。◆事業部会4月6日(火)18人。5月4日(火)中止。◆広報部会4月20日(火)9人。5月18日(火)中止。◆総務部会4月27日(火)5人。5月18日(火)3人。◆古文書講座 入門編：4月14日(水)午前48人。午後55人。5月中止。初級編：4月、5月とも中止。中級編：4月17日(土)午前24人。午後28人。5月中止。2021年第1期の講座は6月20日までの緊急事態宣言延長のため、入門編、初級編、中級編とも中止。

◆館蔵古文書翻刻プロジェクト　4月在宅作業でメール連絡。A班6人。B班6人。5月在宅作業でメール連絡。A班6人。B班6人。

投稿お待ちします

2021年もまた、桜も新緑も心置きなく楽しめることのない年になるとは思いもよりませんでした。

ようやく再開された友の会の活動も３度目の緊急事態宣言で中止・延期となってしまったものもあります。この『えど友』121号が無事に皆さまのお手元に届くことを切に願います。友の会の活動が普通にできるようになっても、参加を躊躇される方も多いかと思います。ワクチン接種がひとつの希望となりますが、まだ外出を控えることもあるでしょう。

そんな在宅時間のひととき、「えど友広小路」の投稿欄へ日々の思いを綴ってみませんか？文字数は1000字程度で、コロナ下での「新しい生活スタイル」の日常や、友の会の催事に参加しての感想などなんでもけっこうです。

原稿は事務局に送るか、広報部会のメールアドレスに添付して送っていただくこともできます(送り先は12頁下部参照)。

たくさんのご応募をお待ちしています。なお、応募の際、ペンネームなどの使用はご遠慮いただいておりますのでご了承ください。

カット：福島信一さん

第202回　江戸東京博物館友の会セミナー（令和3年4月10日）

家康以前の江戸城―知られざる太田道灌・小田原北条氏の縄張り―

講師　谷口　榮さん（葛飾区産業観光部観光課主査学芸員）

はじめに

家康江戸入部以前の江戸城について1960・70年代の研究から見ていきますと、太田道灌は評価されていますが、小田原北条氏は評価されていません。元々江戸重長の館があり、そこが道灌の江戸城となって、それが家康の江戸城になるという図式です。道灌と家康の間に小田原北条氏という戦国武将が入り、江戸を統治したことが見落とされています。

発掘された江戸城と原地形

原点は江戸の地形です。江戸城の築かれた地域は台地と低地からなっています。現在は国立近代美術館と本丸の間に大きな堀がありますが、元は連続した地形でした。舌状台地の先端に江戸城の本丸があり、西側の谷を隔てて別の舌状台地があります。この地形の上に道灌・小田原北条氏・家康がどう整備を加えてきたのかが重要です。

私が学生時代に参加した竹橋御門地区の発掘調査では、家康入部以前の中世の堀跡や多くの焼き物が見つかりました。そのうち中国産の磁器には、日本の鎌倉時代に作られた製品もあります。江戸城本丸に江戸重長の館があったとされているので、遺物が出て裏付けられたと思っている人が多いですが、同時代の国産品はないので、それは肯定できません。唐物（中国産品）は武家の格式を表す威信財（ステータスシンボル）です。私は重長の館は台地（本丸）ではなく低地にあったと思っています。

太田道灌期

江戸城の築城時期は諸説ありますが、いずれにしても享徳3年（1454）の享徳の乱勃発後です。『松陰私話』によると、江戸城は道真・道灌親子の他、扇谷（おうぎがやつ）上杉氏の上田・三戸・萩野谷氏などの宿老によって築かれたもので、道灌一人の手によるものではなかったようです。この江戸城には漢詩板が掲げられており、三つの郭からなり、そこに土塁が巡らされていて、外には水堀があることが書かれています。

また、平川に高橋という橋が架けられ、そこに市が立っていて、舟が繋留されているともあります。ここまでが江戸城の城下です。平川の位置については、元々日本橋川から海へ流れていたという説や、日比谷入り江に流れていたのを道灌が日本橋川の方へ付け替えたという説がありますが、私はどちらも違うと思っています。

扇谷上杉氏（道灌）の縄張りを想定すると、西側は三日月濠（乾濠）から弁慶濠、蓮池（濠）に至るラインで、東側は近世の内堀となる平川の旧流路までです。平川は治水と防御だけでなく、経済活動を支える存在でした。北側は平川濠辺りまでと考えられますが、北の丸の一部が扇谷上杉氏によって郭とされた可能性もあります。基本的には東方の防御を意識した縄張りです。

小田原北条氏期

中世の江戸城は城のたもとまで日比谷の入り江があったといわれますが、小田原北条氏の時代には全く違う風景になっていました。『岩渕夜話別集』や『落穂（らくほ）集』には城の造りが粗末だと書かれていますが、これは西の方の城と比べてです。

北条氏時代の史料を見ていくと、「中城」がよく出てきますので、江戸城の中でも重要な施設だったことが分かります。城内には「富士見の亭」や「菟玖波（つくば）山の亭（東の矢くら）」と呼ばれる施設や、関東公方足利義氏の御座所も築かれています。また、一部に石が使われていたことや、舟入があったことも分かります。

永禄11年（1568）の「北条氏政判物」に出てくる「大橋」は日本橋川に架かる常盤橋の旧称で、付近に大橋宿がありました。私は、北条氏が平川を付け替えて、日本橋川の流れになっていると考えています。また、慶長7年（1602）の「慶長江戸図」を見ていくと、元の平川の流れがあり、日比谷入り江に注いでいます。ここに架かっているのが今の大手門の橋のところで、道灌時代の「高橋」の場所だったと考えられます。平川に沿って三つの蔵地があることから、物を運ぶ重要な舟運のルートだったことが分かります。

北条氏の縄張りは、東は平川を付け替えて常盤橋から外濠のラインまでを城下として広げ、西は最低でも道灌濠のラインまでを取り込んでいたと考えられます。家康が入る前にしっかりした戦国の城として整備されていたのです。

おわりに

これから家康の江戸入部を考えるときには、家康神話を剥ぎ取ることです。小田原北条氏時代の江戸城の位置づけと、豊臣秀吉が奥羽仕置のために江戸へ入ったことが全く伝わっていないこと、この二つをしっかり検討する必要があります。

江戸は古くから水上の交通と陸上の交通が交わる海と内陸とを結ぶ要所でした。小田原北条氏から江戸を引き継いだ家康も、この点を重視して関東の経営を行ったことになります。

レポーターからひとこと

考古学の視点から見た江戸城の歴史は、大いに興味をそそられるものでした。　　参加者165人。

【取材】文・写真：広報部会・菊池真一

江戸東京博物館友の会　見学会　（令和３年４月 18 日）

再訪・品川宿を巡る
ー徳川将軍家との縁ー

前日から心配された雷雨の恐れも遠のき、風はやや強いものの４月のさわやかな日差しに恵まれた中、京急青物横丁駅前から順次出発しました。

海雲寺

最初に訪れたのは、駅からほど近い海雲寺です。南品川宿第一ともいわれる風情ある山門を抜けると、本堂と荒神堂があります。荒神堂に祀られている千躰荒神は火と水と台所

▲荒神堂内部

の神様として親しまれています。３月と11月に行われる千躰荒神祭ではお札が授与され、境内から青物横丁駅まで露店が軒を連ね大勢の参拝者で賑わうそうです。ここの鐘楼は江戸市中第一という声もあります。

品川寺

海雲寺のすぐ隣りが品川寺（ほんせんじ）です。真言宗醍醐派の別格本山という寺格を持つ古刹です。江戸時代に第４代将軍家綱により、境内地4800坪が拝領され堂宇が再興されました。境内の鐘楼は慶応３年(1867)、パリで開催された万国博覧会に出品された後行方不明となりました。その後、ジュネーブの美術館に保管されていることが分かり、昭和５年(1930)に60年ぶりに戻ってきました。「洋行帰りの鐘」と呼ばれ、国の重要美術品に指定されています。境内には樹齢300年、高さ20ｍのイチョウがあり、東京の三大イチョウにあげる人もいます。門前には「江戸六地蔵」の第一番とされる銅製の像が鎮座しています。顔が美しく、その点でも六地蔵の第一番のようです。

荏原神社

旧東海道の品川橋を渡り、川沿いに左に入ったところに荏原神社があります。南品川宿の鎮守ですが、なぜか住所は北品川です。これは目黒川の改修工事で、それまで神社の北を蛇行して流れていたのを、南側に直線的に川筋を変え、住居表示も目黒川を境界としたためです。神社の大祭は「南の天王祭」と呼ばれ、６月に行われます。神面を付けた神輿が海に入る「御神面（ごしんめん）海中渡御」が現在も行われており、「かっぱ祭り」の名でも知られています。

▲荏原神社

東海寺

第一京浜を渡り、東海橋から目黒川沿いを西に進んだ右側に東海寺はあります。臨済宗大徳寺の末寺として寛永15年(1638)、家光の命により造られました。開山は沢庵和尚こと沢庵宗彭（そうほう）。家光は沢庵和尚の人柄と見識を知るに及んで全幅の信頼を寄せ、品川の地に居住することを勧め約47000坪を与えました。家光が東海寺に来駕したのは75回にも及んだといわれ、幕府の庇護のもと数多くの塔頭が造立され繁栄していきます。創建当時は寛永寺、増上寺と並ぶ大寺院でした。しかし、明治維新の廃仏毀釈で廃寺になり衰退しました。現在の東海寺は塔頭の一つであった玄性院が寺号を引き継いだものです。往時の大寺院の様子を偲べないのは残念です。隣接地には細川家墓地（一般公開なし）があり、少し離れたJRの線路に囲まれた大山墓地には、沢庵和尚をはじめ著名人の墓があり、島倉千代子もそこに眠っているそうです。

品川神社

東海寺から第一京浜に戻り、200ｍほど北に行ったところに品川神社はあります。東海道北品川宿の鎮守です。正面の男坂は53段あり、かなりの急階段です。家康は関ケ原の戦いの時に当社に戦勝祈願し、凱旋の後、仮面、神輿などを奉納しています。６月に行われる例大祭では、この家康奉納の「天下一嘗（ひとなめ）の面」が宮神輿の屋根に付けられ、脇に付けられた太鼓で品川拍子を打ちながら渡御します。祭のクライマックスでは、53段の男坂を神輿が駆け上がる宮入が行われます。

土蔵相模跡

旧東海道を北上した北品川駅近くのマンションが、土蔵相模の跡地です。ここに品川宿きっての大旅籠「相模屋」があり、ナマコ壁の外観が土蔵のように見えたので「土蔵相模」の異名で呼ばれていました。南品川の「釜屋」は幕府側の定宿でしたが、ここは勤王方の定宿だったようです。映画「幕末太陽傳」は「相模屋」が舞台になっています。建物は昭和50年代まではホテルとして残っていました。品川宿地域は戦災をほとんど受けなかったため、かつての宿場町の面影が所々に残り、台場横町など名の付いた横町が数多くあって、歩いていて楽しい街でした。まだ日の高い中、北品川駅で解散となりました。　　参加者82人。

【取材】文：広報部会・福田 徹
写真：同・元沢 宏

（えど友ホームページに地図と写真レポートが掲載されています）

友の会カードは“休館前なら”こんなに使える！

～東京都歴史文化財団各施設での特典一覧～

「入会のご案内」に記載されている「東京都歴史文化財団各施設での特典」の詳しい内容は下記の通りです。

なお、江戸東京博物館の長期休館中（令和４年４月１日以降）は他施設の特典はご利用になれませんので、ご注意ください。

○各施設に入館の際は、受付で「会員証」をはっきりと提示して、有効期限などの確認を受けるようにお願いします。
○ミュージアムショップやレストランなどでの支払いの際も同様です。
○会員証を忘れた場合、下記の特典は受けられませんのでご注意ください。

施設名	常設展	企画展（※１）	ミュージアムショップ	レストランカフェ	その他
江戸東京博物館	無料	特別展 料金半額 同伴者２割引 （１人限定）	５％引き （一部商品を除く）	割引あり	●えどはくカルチャー２割引 ●ホールでのイベント割引
江戸東京たてもの園	入園料 料金２割引	（入園料で入場可）		（右記）	●たべもの処「蔵」100円返金（うどん・弁当・カレーライスのみ） ●デ・ラランデ邸内カフェ「武蔵野茶房」５％引き
東京都庭園美術館	（庭園） 料金２割引	企画展 料金２割引		５％引き	
東京都写真美術館		収蔵展・企画展 料金２割引		（現在閉店中）	１階ホールでの上映割引 （上映によって割引の有無および率が異なる）
東京都現代美術館	料金２割引	企画展 料金２割引 （企画展チケットで常設展入場可）		５％引き	
東京都美術館		企画展・ 上野アーティストプロジェクト 100円割引		５％引き	
東京文化会館			ギフトショップ、和小物ショップ ５％引き （一部商品を除く）	５％引き（会員本人に限る） ※２階レストランのみ （カフェを除く）	

※１：「企画展」とは各施設主催の展覧会を指します。外部団体が貸しスペースで行うものは含まれません。

えど東京一景

(28) ー麻布十番のきみちゃん像ー

麻布十番には都営大江戸線、東京メトロ南北線の２本の地下鉄が通り、すぐ近くに六本木ヒルズがそびえています。おしゃれで最先端を行く街という印象ですが、昭和の頃は、今よりも下町的な街でした。高校生の頃、調理実習の食材を買いに行った魚屋は魚料理の飲食店に、部活帰りにラーメンを食べた店は高級中華料理店になっていたり、すっかり様変わりした商店街です。

一の橋交差点から十番通り南側のパティオ通りを六本木方向に進むと、小さな公園のような広場があります。昭和61年(1986)にパティオ十番として整備され、住民の憩いの場になっていますが、ここに「きみちゃん像」(佐々木至作)が立っています。

「♪赤い靴　はいてた　女の子
　異人さんに　つれられて　行っちゃった♪」

大正11年(1922)に発表された童謡「赤い靴」(野口雨情作詞・本居長世作曲)で、実在の岩崎きみという少女がモデルです。北海道開拓農場で過酷な生活を送っていた両親は、彼女が３歳の時やむなくアメリカ人宣教師夫妻の養女に出しました。しかし、宣教師夫妻が帰国する頃すでに結核に侵されて、横浜から汽船に乗ることもできず孤児院に預けられました、母親との再会もかなわず、わずか9歳で亡くなってしまったそうです。母親は、最愛の娘がアメリカに渡って幸せに暮らしていると思い込んだまま、一生を過ごしました。

麻布十番商店街は平成元年２月28日、パティオ十番に「きみちゃん像」を建てました。岩崎きみの最期をみとった孤児院が、麻布の鳥居坂教会(現在の十番稲荷神社)にあったからです。像ができた日に「きみちゃん」の足元に小銭を置いた人があり、それがきっかけで「麻布十番納涼まつり」ではチャリティーが続けられ、現在も子どもたちのためにユニセフに寄付されているそうです。

【取材】文：広報部会・大橋弘依／イラスト：同・福島信一

江戸博クリップ

パンのようなものが焼ける木箱

展示事業係　学芸員　秋間敬代（あきま たかよ）

戦後間もないころ、「パンのようなものが焼ける木箱」があった。これは、私が幼いころ、祖母から聞いた話である。パンはオーブンで焼くものだと思っていた私にとって、祖母が両手で示す小さな木箱でパンが焼けるというのは、にわかには信じがたい話であった。木箱内部に金属板が貼ってあり、直接電流を流して使用したという。その話を聞き、パンが焼けるほどの熱に木箱は耐えられるのだろうか、という疑問が頭に浮かんだ。

また、焼き上がるパンは「パンのようなもの」であって、現在の「パン」ではないとのこと。謎は深まるばかり。そうこうするうちに、おやつの時間は終わり、会話は途切れた。その後「パンのようなものが焼ける木箱」は記憶の底に沈み込み、ほとんど思い出すこともなかった。

今年の４月より江戸博の学芸員として働くようになり、常設展示を観ていたときのこと。祖母が話していたような木箱と「電気パン焼き器」というキャプションが目に入った。解説を読み、パン種に電流を流すことで発生するジュール熱を利用していること、焼きあがるパンは蒸しパンのようなものであることが分かった。これが「パンのようなものが焼ける木箱」か、と嬉しくなった。電気パン焼き器を通して、祖母の生きた時代と現在がつながったような気がした。博物館は、過去と現在をつなぐ特別な場所なのかもしれない。

◆このコラムは江戸東京博物館のいろいろな職務の方々に執筆をお願いしています。

江戸

名所図会を歩く…55

[根津権現社から富士浅間社]

富士神社の献石

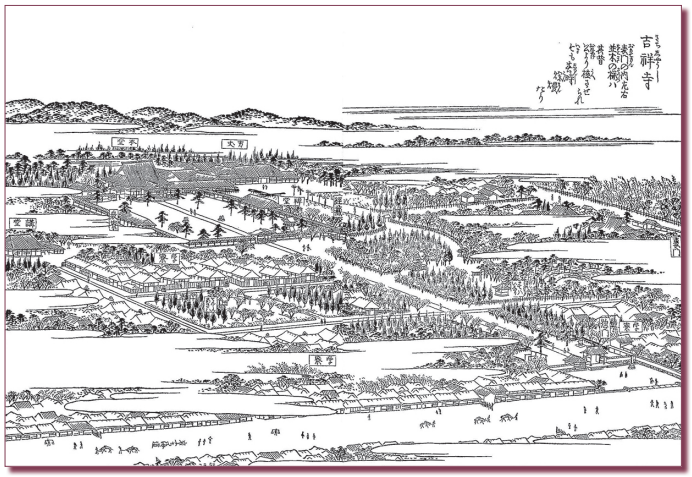
今回は文京区の根津から始まります。前回の道灌山から南に下ったことになります。ウメやボケ、早咲きのサクラなど、春の花が咲き始めた３月初めに歩いてみました。

根津権現社から大観音

東京メトロ千代田線根津駅から不忍通りを経由して、５分ほどで根津権現社(現根津神社)です。この地は５代将軍綱吉の兄、綱重(家光の第２子)の山手屋敷でしたが、６代将軍家宣の産土神として綱吉が千駄木にあった当社を移し、宝永３年(1706)に完成しました。権現造りの本殿・幣殿・拝殿・唐門・西門・透塀・楼門の全てが欠けずに現存し、国の重要文化財に指定されています。境内の広さも、往時とほぼ変わりません。境内にはこの地で生まれた家宣の胞衣(えな)塚があります。塚といっても、雑然と割石が積み重ねられたもので、向かい側には明治になってその由緒を記した「胞衣塚碑」が立っています。さらにつつじヶ丘を上っていくと、千本稲荷をくぐって乙女稲荷があります。この稲荷はつつじヶ丘の中腹に穿たれた洞に祀られた神社で、古記録には「穴稲荷」といわれたと説明板にありました。他にも境内には明治以降、区内の道路工事などで移設された庚申塔や塞大神(さえのおおかみ)(道祖神)碑など、引かれるものがあります。

根津神社の西門を出て根津裏門坂から、へび道(藍染川)に向かいます。根津権現社の次の項目は普賢山法住寺、日登山妙林寺です。この二つのお寺は藍染川に沿って左右に立っていましたが、移転や廃寺となって今は跡形もありません。くねくねした細い道を楽しみながら三崎坂に突き当たり、左に行くと団子坂です。団子坂の上、東洋大学国際会館の辺りが元根津といわれた根津権現旧地で、挿絵にも「千駄木坂の上わづかばかりの地をさしていへり」とあります。

さらに進むと、大観音商店街通りとなり、大観音に着きます。浄土宗の光源寺の境内にあり、奈良長谷寺の写しとして元禄10年(1697)造立の十一面観世音立像が安置され、堂宇の窓からお顔が拝観できました。挿絵でも駒込大観音として描かれています。しかし、戦災で観世音立像も堂宇も焼失してしまい、平成５年に再興されました。その観音像は高さ６ｍ余もあり、長谷寺の十一面観音と同じく、錫杖を右手に持ち、金箔、金粉の極彩色に彩られています。



▲吉祥寺

目赤不動堂から諏訪山吉祥寺

本郷通りに出て右折し、少し行くと南谷寺の目赤不動堂です。南谷寺は元和年間(1615－24)、比叡山南谷の万行律師が開山となり、駒込動坂に庵を設け不動明王像を安置したのが始まりで、この不動を赤目不動と呼びました。寛永年間(1624–44)、３代将軍家光が鷹狩りの途中動坂のこの庵に立ち寄り、この赤目不動を目黒・目白不動と同じように目赤不動と呼ぶように伝え、寺領を現在地に寄進します。その後、寺を動坂からここに移転し、駒込目赤不動と改めたとあります。

目赤不動堂の少し先、斜め向かい側に吉祥寺の山門が見えてきます。重厚さを感じさせる山門は両袖に潜戸を附けた四脚門、屋根は本瓦葺の仕様に大棟を青海波積と丸瓦輪違い積みの組み合わせ、その両端と降棟先端を鬼瓦で飾っています。この表門は駒込に移転後の元禄元年竣工し、その後２度の焼失を経て享和２年(1802)に再建されたのが現在残っている門です。江戸時代には曹洞宗の栴檀林として数多くの末寺を擁し、挿絵には広大な境内に多くの学寮が描かれていますが、戦災で大部分の伽藍が失われ、往時を偲べるのは山門と経蔵のみです。経蔵は文化元年(1804)、焼け残った基檀の上に創建当時のものと同じ大きさで再建されました。山門から広い参道を望むとシダレザクラの枝が入り口を覆わんばかりに垂れ下がっていました。

駒込神明宮から富士浅間社

吉祥寺の裏に当たる現在の駒込病院の辺りは御鷹方同心組屋敷でした。その北側に駒込神明宮(現駒込天祖神社)があります。駒込村の総鎮守として信仰を集めた社で、祭神が天照大神であることから社殿は伊勢神宮の流れをくむ神明造りです。４月中旬に再訪すると境内はすでに新緑が輝き、落ち着いた雰囲気に満たされていました。社殿裏には「鷹匠組」の石柱がありました。

ここから数分で富士浅間社(現富士神社)です。祭神は木花咲耶姫命で元は旧本郷村にありましたが、寛永６年、この地に移転しました。富士神社は、氏子を持たず富士講組織で成り立っていました。ここは昔から富士塚と呼ばれていたそうで、社地は急な階段を上った所にあります。正面崖には加賀鳶をはじめ、鳶職仲間の奉納による献石が多くあり、またその間に熔岩石が積まれています。神社の建物はそっけないコンクリート造りですが、裏を巡ると、周囲は木立に囲まれ、サクラやショカッサイの花が咲き、静寂の中にシジュウカラのさえずりが絶え間なく響き渡る異質の空間でした。

【取材】歩いた人(文・写真とも)：
広報部会・中村貞子

(えど友ホームページに地図と写真レポートが掲載されています)

催事案内

新型コロナウイルス感染防止にご協力を

新型コロナウイルス感染防止の緊急事態宣言により、古文書講座やセミナーなどの催事に影響が出ました。７月以降の友の会の催事は、計画通りの開催を予定しています。

なお、引き続き催事申込および参加時には下記のご協力をよろしくお願いいたします。

1．申込みはがきに必ず会員番号、連絡先電話番号を記入、同伴者があるときはその氏名、電話番号、住所をご記入ください。

2．①から④に該当する場合は来場・参加はご遠慮ください。
①発熱があり検温の結果、37.5℃以上　②咳・咽頭痛などの症状がある　③新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある　④過去２週間以内に入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問履歴及び当該在住者との濃厚接触がある

3．参加・来場時には以下の①から⑥を守ってください。
①入館時に検温を受け、マスクを着用し、手指を消毒する、見学会参加者はマスクを着用し、受付時に検温を受け、手指消毒する　②受講票参加票切り取り線下部のチェック表に記入提出する　③会場内及び見学時の会話は極力控える　④咳エチケットを守る　⑤入場前・トイレ待機・終了後退出などの際は社会的距離を保つ　⑥会場内や見学時に体調不良の場合、速やかにスタッフに伝える

◆新型コロナウイルスの感染による催事中止(延期)のお知らせをはじめとして、「えど友ホームページ」には、友の会の最新の情報が掲載されています。ぜひご覧いただき、お役立てください。

事業部会長　川上由美子

古文書講座

◆９月から第２期を開講

5月開講の新年度第1期は、緊急事態宣言のために中止となりました。昨年同様9月からの第2期が本年度のスタートとなります。日程は下記の通りです。申込の受付は7月末まで。1枚のはがきで複数講座の申し込みができます。

多数の皆様のご参加をお待ちしています。

◆入門編
- 講師：田中潤さん(学習院大学非常勤講師)
- 開催日：９／15(水)、10／６(水)、11／10(水)

◆初級編
- 講師：安藤奈々さん(学習院大学大学院史学専攻)
- 開催日：９／22(水)、10／20(水)、11／17(水)

◆中級編
- 講師：吉成香澄さん(徳川林政史研究所非常勤研究員)
- 開催日：９／18(土)、10／16(土)、11／20(土)

- 時間：各講座とも午前の講座は10時30分～12時30分
午後の講座は14時～16時

(注意)午前か午後かの希望を忘れずに明記

- 会場：各講座とも江戸東京博物館１階会議室
- 定員：各講座　80人(会員のみ)
- 参加費：各講座とも全３回2,000円(初回一括払い)

【企画担当責任者】川上由美子(事業部会)

友の会セミナー

第 206 回「徳川家康はなぜ三浦按針を外交顧問としたのか」

講師　鈴木かほるさん(歴史研究家)

◆通説では、三浦按針は英蘭貿易のために外交顧問として重用されたことになっているが、実はそうではない。それは旧教国スペインとの貿易のためである。浦賀湊にスペイン船招致を画策する家康が、なぜ、その敵国のプロテスタントの三浦按針を顧問としたのか。また、彼の来日から母国イギリスとの国交が樹立されるまでの13年間、彼は何をしていたか。浦賀貿易にどう関わり、どう家康と関わったか。禁教により平戸に移住するまでをお話しいただきます。

◆講師略歴：すずき・かほる
神奈川県在住。国学院大学文学部史学科卒。中世史専攻。三浦一族研究会特別研究員。元ＮＨＫ文化センター講師。現在、国史学会、鎌倉遺文研究会、日本海事史学会所属。ＮＨＫ・Ｅテレ、民放テレビなどに出演、講演など多数。著書は、『徳川家康のスペイン外交』、『相模三浦一族と、その周辺史』、『史料が語る向井水軍とその周辺』などの他、論文多数。平成28年瑞宝単光章叙勲。

- 開催日時：８月18日(水)　14時～15時30分
- 申込締切：８月５日(木)必着
- 会場：江戸東京博物館・１階大ホール
- 定員：200人　同伴者可(はがきに氏名・電話番号連記)
- 参加費：会員500円・同伴者600円(当日払い)

【企画担当責任者】國定美津子(事業部会)

第 207 回「馬と往く街道と宿場」

講師　村井文彦さん(馬の博物館学芸員)

◆かつて、馬は人間の暮らしと深くかかわっていました。その華々しい活躍の数々は史書や物語によって長く語り伝えられています。そして、あまり触れられることはありませんが、日々の地味な働きもまた伝えられています。初めて馬で旅に出た大国主命以来、都に上る農民、武蔵から筑紫に赴く防人、駅路を往来した駅馬等々、数多くの人馬の姿が六国史や万葉集に見られます。都と鄙を往復した平安朝の官人や彼らが見た情景、中世・近世の路を行く人馬もまた、史料からうかがい知ることができます。また、東海道・東山道などの主要な道路の他にも、例えば「塩の道」などと呼びならわされる、生活に欠かせない道が野を越え山を越えていました。これらの、長きにわたって途絶えることなく村や里や町を、従って人と人を結んだ旅路と、そこを行き来した人馬に私たちの祖先の足どりを振り返って見てみましょう。

◆講師略歴：むらい・ふみひこ
昭和32年(1957)東京都新宿区生れ。大久保・百人町で育つ。1986年立教大学大学院修了。専攻は日本近世史(江戸近郊農村など)。公益財団法人馬事文化財団において馬と文化にかかわる調査・研究・収集・保存・普及にあずかり、馬の博物館・JRA競馬博物館で学芸員を務める。専門：人馬一体の日本史。江戸時代を中心に古今東西、広く人と馬のかかわりの研究を目指しています。

- 開催日時：９月11日(土)　14時～15時30分
- 申込締切：８月26日(木)必着
- 会場：江戸東京博物館・１階大ホール
- 定員：200人　同伴者可(はがきに氏名・電話番号連記)
- 参加費：会員500円・同伴者600円(当日払い)

【企画担当責任者】阪上克弘(事業部会)

えど友会員発表会

第12回「えど友会員発表会」

◆昨年はコロナ禍のため残念ながら中止となりました。来年度以降、江戸東京博物館が長期休館となることも考慮し、今回は３組の方々に発表いただきます。発表者と演題は次の通りです。

・**須賀　靖さん**
「妖怪」その魅力と不思議
日本のみならず欧米にも伝わる「不思議」の存在「妖怪」。その大いなる魅力とは。

・**町田菊男さん**
江戸の葬送と墓制
墓石文化の転換期にある現代。江戸時代を中心に墓石文化・葬送方法の変遷の歴史を俯瞰。

・**國定美津子さん／尾形宏さん／鶴谷博幸さん**
江戸台地の変遷－権現様のお引越しと大名旗本－
江戸の歴史は古くて深い。日本武尊に始まり、徳川氏まで。江戸城とその周辺、江戸台地の魅力とは。

- 開催日：９月２日(木)13時～16時30分
- 申込締切：８月19日(木)必着
- 会場：江戸東京博物館・１階会議室
- 定員：80人　同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費：会員・同伴者とも無料

【企画担当責任者】大塚　仁(事業部会)

催事のお申込方法

◆**普通はがき(63円)**に、
①催事名(略名可)・開催日　②会員番号**(必須)**
③氏名(同伴者連記)　④連絡先電話番号
＊同伴者がいる場合は、氏名、住所、連絡先電話番号を併記
を明記して右記の「友の会事務局」へ。

会員優待のお知らせ

●特別展「大江戸の華－武家の儀礼と商家の祭－」

会　期：７月10日(土)～９月20日(月・祝)
会　員：一般700円、65歳以上350円、大・専門生560円
　　高・中・小学生350円
同伴者：一般1,120円、65歳以上560円、
　　大・専門生890円、高・中・小学生560円
●(注)割引を受けられる同伴者は１人だけです。

次回予告

●特別展「縄文2021－東京に生きた縄文人－」

会　期：10月９日(土)～12月５日(日)

企画展のご案内

会期残り僅か お見逃しなく！

●「発掘された日本列島2021」

地域展：江戸の金箔瓦

会　期：６月５日(土)～７月４日(日)
会　場：常設展示室　５Ｆ企画展示室

●次回予告
「相撲の錦絵と江戸文化」

会　期：７月17日(土)～９月５日(日)
会　場：常設展示室　５Ｆ企画展示室

休館日

7月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

◆申込は、催事ごとに会員１人１通。
◆友の会へのご意見・ご要望があれば記入してください。
◆申込先：〒130-0015　東京都墨田区横網１－４－１
　　江戸東京博物館**「友の会事務局」**

＊**「えどはくカルチャー」など江戸博への申込とは違います。**

＊お申込いただきますと、「受講票参加票」をお送りします。当日ご持参のうえ、受付で登録、切り取り線下部のチェック表を提出してください。
なお「受講票参加票」は逐次お送りするのではなく、申込締切数日後、一斉にお送りしますので、それまでお待ちください。

＊いずれも**申込多数の場合は抽選となることがあります**。

＊「受講票参加票」未着のお問合せや参加予定変更の連絡などはなるべく事務局員出勤の**火曜日か金曜日(11時～12時、13時～16時)**にお願いします。

＊「受講票参加票」がないと受講できません。必ず事前に申込をしてからご参加ください。

会報＜えど友＞第121号
令和３年７月１日発行（奇数月１日発行）
編集・制作：江戸東京博物館友の会広報部会
E-Mail：edo_tomo_koho@yahoo.co.jp

発行人：待場 浩(会長)　編集長：中村貞子
岡本 脩、福島信一、内匠屋京子、佐藤美代子、前田太門、菊池真一、光田憲雄、大橋弘依、田辺友紀子、横島利明、福田 徹、元沢 宏、秋元康良
発行：江戸東京博物館友の会
〒130-0015　東京都墨田区横網１－４－１　電話 03-3626-9910